高知大学
Kochi University

平成23年12月号

国際・地域連携センターニュースレター＜第7号＞

〒780-8073　高知県高知市朝倉本町2丁目17－47
TEL：088-844-8555　FAX：088-844-8556
http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/
編集責任者：吉用

はじめに

「地域社会・文化への貢献」
中国・四国地区で　第　1　位　！！
―日経BPコンサルティング「大学ブランドイメージ調査2011～2012」地区別ランキング評価―

大学ブランドイメージ調査は、大学や在学生に抱くイメージ 49 項目について、全国の国公私立大学を対象に実施されました。各地域在住のビジネス・パーソンや、中学生以上の子供のいる父母、また、教育関連従事者の目線から調査され、この 11 月に調査結果が報告されました。日経 BP コンサルティング、日経トレンディネットの HP から一部閲覧可能です（詳細は有料）。

この調査は「首都圏」「近畿」「北関東・甲信越」「北陸・東海」「中国・四国」「九州・沖縄・山口」の 6 地域ごとに行われており、中国・四国地域においては9県58大学が順位づけされています。

本学は、中国・四国地区において、総合点で昨年11位から8位へとランクアップしました。特に、「地域社会・文化に貢献している」では第1位となりました。地域社会との連携の強化を目指し、取組を行ってきた本学の活動が評価されたものと考えられます。

目　次

p1　はじめに
p2　地域連携・再生部門
Topic1. 地域が大学に求めるものとは…
Topic2. 新たな地域へ　出前講座拡大！
Topic3. カツオ節日本一の枕崎でカツオの未来を語る
p4　産学官連携部門
Topic1. 本学から新たに7件の競争的資金採択
p5　知的財産部門
Topic1. 寒さに負けず　アグリの未来に向けて
p6　国際連携部門
Topic1. 大陸自慢の郷土料理を召し上がれ
Topic2. 万国共通　幸せなら手を叩こう

Topic 1.　地域が大学に求めるものとは…
～第2回 高知大学ホームカミングデー 開催～

11月12日（土）、本学と同窓会連合会との共催で第2回ホームカミングデーが開催されました。会場を3つに分け、岡豊会場ではシンポジウム「災害時の医療」、物部会場では農学部の各コース主任による記念講演、朝倉会場では人文、教育および理学部の記念講演が行われました。

また、朝倉本部会場では、受田センター長をコーディネーターとして、シンポジウム「連携自治体は高知大学に何を求めるか？」が開催されました。四万十市、土佐市、室戸市、大豊町の首長がパネリストとして参加し、それぞれ連携事業の現状や大学への要望、期待等、活発な討論が行われました。「行政と先生または学生が定期的に交流する仕組みがほしい」、「大学にも行政の仕組みを知ってほしい」、「もっと地域に出てほしい」、等々、率直なご意見も頂き、連携自治体が高知大学に対して、より踏み込んだ事業展開を望んでいることが窺い知れました。

Topic 2.　新たな地域へ　出前講座拡大！
～出前公開講座 in 梼原町　開講～

出前公開講座は、平成17年度の国際・地域連携センター発足時には2自治体（中土佐町、土佐町）での開催でした。その後、平成19年度に大豊町が参画し、3自治体での開催が4年間続きましたが、平成23年度より新たに梼原町が加わり4自治体での開催となりました。徐々に本学の出前公開講座が、地域に浸透しつつあるようです。

今回、梼原町では以下の講座が開催されました。講師を務めていただきました先生方にお礼申し上げます。

日程	担当講師名	題目	受講者数
10 月 26 日（水）	吉岡　医学部 附属病院 助教	発達障がいをもつ子どもたち	35 名
11 月 9 日（水）	脇口　医学部 教授	学級崩壊を防ぐためのメッセージ ―集団行動をとれない子ども達―	39 名
11 月 16 日（水）	丸井　人文学部 教授	コミュニケーション（相互行為）と飲食 ―ヒトはどのようにして人になるか―	29 名
11 月 30 日（水）	谷口　教育学部 教授	耳から始めよう英語学習	18 名
12 月 7 日（水）	神家　教育学部 教授	発達段階に応じたスポーツ活動を考える	19 名

Topic 3.　カツオ節日本一の枕崎でカツオの未来を語る ～カツオの町 枕崎市にて カツオフォーラム開催～

平成23年1月に、黒潮町と本学の連携の一環として日本カツオ学会を設立し、10月には学会ホームページも開設しました。そして、11月13日（日）には高知を飛び越え、カツオの町枕崎市にてカツオフォーラムを開催しました。本学会は地域・領域・学問・立場など様々なレベルを超えて、カツオの価値を問い直すことを目指しています。この指針に則り、フォーラムでは以下のテーマで講演を行いました。

基調講演　「カツオをめぐる国際環境と日本」　東京海洋大学　末永芳美　教授
特別講演　「東日本大震災とカツオ漁業」　水産庁資源管理部漁業調整課　高瀬美和子　課長補佐
テーマ部会「カツオ資源と漁撈技術」
「カツオの機能性と地域に根ざした利活用」

日本カツオ学会では、この度「大会旗」を作製し、フォーラムの最後に枕崎市の神園征市長から若林会長へ、そして若林会長から次回開催地である宮古島市の長濱政治副市長へと大会旗が受け渡されました。
カツオの産地交流と産業発展のため、当センターも支援を続けてまいります。
（カツオ学会 HP：http://www.katsuo-gakkai.jp/）

Topic 1.　本学から新たに7件の競争的資金採択
～A-STEP 第2回 探索タイプ～

独立行政法人科学技術振興機構（JST）の研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）平成 23 年度第 2 回公募【FS】探索タイプの採択課題が公表されました。高知大学から以下の 7 件が採択されました。なお、全国で2，800件の応募があり、採択は832件でした（採択率29．7%）。

・有機不斉触媒反応の最適化による実用的不斉合成技術の開発
理事（研究担当）　小槻日吉三　副学長

・腫瘍内へT細胞を動員する次世代免疫療法の開発
基礎医学部門　宇高　恵子　教授

・新規尿中バイオマーカーを用いた慢性腎臓病患者での急性腎障害の早期診断法の開発
臨床医学部門　寺田　典生　教授

・紫外線誘導性皮膚癌モデルマウスの創薬におけるプラットフォームとしての応用
臨床医学部門　横川　真紀　助教

・界面重合反応を活用した新しいナノファイバー合成技術の確立
農学部門　市浦　英明　准教授

・飛翔性微小昆虫を捕食する土着天敵メスグロハナレメイエバエの大量増殖法の開発
農学部門　荒川　良　教授

・光センシングを利用した食品偽装防止技術に関する研究
農学部門　河野　俊夫　教授

Topic 1. 寒さに負けず　アグリの未来に向けて
～アグリビジネス創出フェア2011　閉幕～

11月30日(水)～12月2日(金)　千葉県の幕張メッセにおいて、農林水産業・食品産業分野における最新の研究成果や技術の実用化・産業化をめざした技術交流・展示の場である農林水産省主催の「アグリビジネス創出フェア2011」が開催され、本学は農学部が中心となって参加してきました。東北・東日本を中心に急激に冷え込んだ3日間でしたが、延2万6千人の参加者がありました。産学官の研究機関等179機関からプレゼンテーションやポスター展示、新商品の試飲・試食などがあり、積極的な企業とのマッチング活動が行われました。

本学からの出展

- 農学部門　永田　信治　教授
  「植物資源の乳酸発酵や微生物多糖を利用した食品開発と飼料開発」（プレゼン）
  「乳酸発酵システム、天然酵母パンの開発など」（ポスター展示、試食）
- 農学部門　藤原　拓　教授
  「バイオマスのカスケード型循環利用による高付加価値食料の生産」（プレゼン）
- 農学部門　手林　慎一　准教授
  「ピーマン葉を用いた有用物質の大量生産技術の開発」（ポスター展示）
- 農学部門　深田　陽久　准教授
  「未利用バイオマスの養殖魚類飼料への転換」（ポスター展示）

永田先生と藤原先生のプレゼンテーション

高知大学の展示ブース

Topic 1.　大陸自慢の郷土料理を召し上がれ
～物部キャンパス1日公開に留学生が出店～

平成23年度11月3日（木）に開催された「物部キャンパス1日公開」に、韓国と中国の留学生11名が参加しました。韓国の留学生は、チジミ、トッポッキ、ホットックを実演販売し、常に列が途切れることがないほどの人気でした。中国の留学生は、2種類の水餃子を皮から手作りし、できたてを販売しました。こちらも準備していた材料が足りなくなるほど好評でした。両ブースとも作り方や具材について質問が相次ぐぎ、地域の方と交流を深めました。

Topic 2.　万国共通　幸せなら手を叩こう
～留学生交流懇談会開催で大合唱～

平成23年11月30日（水）に高知商工会館にて、留学生とその家族、留学生支援団体、関係教職員を招いて、外国人留学生交流懇談会を開催しました。全員で154名が参加し、留学生はお世話になっている地域の留学生支援団体や、教職員、日頃会うことの少ない他キャンパスの留学生との交流を楽しみました。

また、アトラクションでは、留学生によるタイ、中国、サモアの伝統的な歌や踊りの披露や、櫻井理事及び鈴木理学部門長の演奏に合わせた「たき火」と学歌の合唱で、大いに盛り上がり、最後に「幸せなら手を叩こう」を留学生が順番に各国の母語で歌い上げ、会場全体で大合唱になりました。

記念写真

マリアさんによるサモアの伝統的な踊り披露